平成20年度多可町教育委員会事務事業評価票

こころ豊かで(優しさと思いやり)、かしこい・そして心身ともにたくましい人づくり			
施策名	ともに学び、ともに行動できる「協働」の環境づくり		
評価担当課	教育委員会社会教育課	所管	社会教育課
施策目標 (目指すべき状態)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育においては、住民の正しい理解を促し、人権意識を高める住民学習を全集落において継続的に実施する。 ・生涯スポーツの基盤づくりを進める振興計画を策定し、概要版を全戸配布する。 ・各施設においては、活性化を図るとともに魅力ある運営に努め、多くの利用者を確保する。 		
施策を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> ・住民学習は、各集落の実情にあった学習形態で実施しているが、参加者の減少傾向が見受けられる。 ・少子化、高齢化、情報化の観点からスポーツに期待されること。 ・各施設とも運営においてはボランティアの協力体制が充実しているが、今後も連携が望まれる。 		
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての集落でビデオ、講話、視察研修などの学集会が実施された。 ・3月末には計画書、概要版は完成している。なお、概要版は全戸配布をしている。 ・各施設とも厳しい状況の中で、特色を活かし取り組んでいる。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高める手法を取り入れ、学習会の充実を図る。 ・現状と課題を明確にし、それを踏まえて基本的な推進方向を示していく。 ・各施設とも現状を十分に調査し、魅力ある運営に努め利用者の確保を図る。 		
講評	<ul style="list-style-type: none"> -1 特に問題点は無い。 -2 目標は達成されているのでもっと高く評価すべきである。 -3 普及が進んでいないことからあまり評価はできない。実質評価2が妥当。 -4 出前講座の開設もあまりできていないことからあまり評価はできない。実質評価2が妥当。 -5 特に問題点は無い。 -6 地域が子どもを育てることが本来の目的であることから地域住民の協力体制を整えることが大事である。また、中学生に地域防災意識をつけることは評価できる。 -7 評価は妥当と思うが、交流する年齢の差や交流内容について相違があるため本来の教育交流とは違う気がする。また、町の規模からして2つの国との交流をどのようにしていくかが課題であると考え。 -8 達成目標を高くしているがため、自己評価を低く見られているが、人口規模からすると貸し出し冊数や登録者24.6%の成果は高く評価する。 -9 来館者の増加を目指すことが課題である。他事業(団体)との連携が必要である。 -10施設の稼働率は高く評価でき、その必要性は認めるが費用対効果をもう少し考えるべきである。また、子ども向けの事業を増やすことも検討する必要がある。 -11特に問題点はない。 -12成果指標からすると実績が伴っていないため評価は高すぎると考える。今後は参加者増を望む。 		

施策を構成する事務事業の状況

事務事業名	経費の概算(千円)		自己評価	評価委員意見	担当課・所管
	H19	H20			
-1 グラウンドの夜間照明料免除の実施【新規】	0	0	3	妥当である	生涯スポーツ室
-2 多可町生涯スポーツ振興基本計画の策定・実践【新規】	1,453	1,012	3	もっと評価すべきである	生涯スポーツ室
-3 「アスパル体操」"リラックスパーション"の普及【新規】	0	0	3	評価が高すぎる	生涯スポーツ室
-4 隣保館出前講座等の開設【新規】	0	30	3	評価が高すぎる	隣保館
-5 住民学習(人権教育・啓発事業)の充実	5,983	5,773	3	妥当である	人権教育推進室
-6 スクラムハート・プロジェクト(消防団と中学生の交流)の推進	555	49	4	妥当である	社会教育課
-7 国際教育交流の充実	5,300	2,541	3	妥当である	学校教育課
-8 魅力あふれる(開かれた)図書館の充実	25,775	22,872	3	もっと評価すべきである	図書館
-9 「歴史・伝統文化・自然・交流」を柱に体験イベントの充実	6,184	6,059	3	妥当である	那珂ふれあい館
-10 芸術・文化活動を通じ、文化の香るまちづくりの推進	56,596	57,250	3	妥当である	文化会館
-11 放課後子どもプランの展開	1,324	1,305	4	妥当である	社会教育課
-12 公民館の「学問所」の充実	20	20	3	評価が高すぎる	公民館

(注)評価委員の意見は教育委員会の自己評価に対する意見である。